

本校生の政治意識および政治活動

金沢大学教育学部附属高等学校

板 屋 源 清

小 倉 幸 春

最近、全世界的な規模で学生運動が激発し、「反抗の世代」といわれる学生たちが、大学の革新に始まって、ついには現存の社会体制の変革まで要求するに至っている。このスチューデント・パワーは、高等学校の段階にも及んで、にわかに世論の注目をひくようになった。

教育界でも、高校生の政治運動について、あらためて問題視されている。本校でも、問題のもつ重要性にかんがみ、高校生の政治意識および政治活動についての実態を調査し、適切な指導を研究することに着手した。もちろん本校の場合という限られた環境におけるものであって、現状では一般論に及ばない。

I 調 査

一 「本校生の政治意識および政治活動」についての調査

1 目 的

本校生が、高校生活三年間を通して、政治的事項を、いかにみ、いかに考えたか。またどんな行動を思い、実行したか。このことを知るため、アンケートをとることにした。

2 実 施

調査対象者は、昭和四四年三月の本校卒業生とした。高校生活を終えたところで、高校生としての全経験を知るに最適であるためである。在校生としなかったのは、卒業までの期間が未知空白となるだけでなく、調査による無用の刺激を避ける意図もあった。

調査時期は、昭和四四年三月一日卒業式当日に依頼した。回答は三月中旬から四月上旬までに集めた。五月上旬に一通追加があった。卒業期は受験期であるため、ほぼ全員が揃うのは、卒業式当日しかない。また、大学受験を終えた者が大部分となる時期でもある。入試前では気分的に調査に答える余裕が少なく、また受験生に余分な負担にしない配慮もあった。

“「高校生の政治意識および政治活動」について、諸君の⑦在学中の経験と、⑧卒業の時点における反省的な感想とを書いていただきたい。

- ① 政治的事項についての関心の有無、関心の程度
- ② 政治的事項と本校教育との関係
- ③ 大学問題および学生運動についての感想
- ④ 高校生の政治活動についての感想
- ⑤ 付高生にたいする政治意識および活動についての、先輩としての忠告助言

これらについての回答をお願いします。各項目の書きはじめに①—⑤の記号と、㊦㊧の別をはっきり書いて下さい。ただし③④⑤には㊦㊧の別がなくてもよい。文章の長さは無制限です。出来上がったら、主任の先生のもとまで、持参または郵送の方法で届けて下さい。

なお記述にあたっては、率直で自由な態度をとられるよう願います。記名は任意といたしますが、男女の性別は明記しておいて下さい。

またこの回答の内容についての個人的秘密は責任をもって守り、けっして諸君の将来に迷惑が及ぶようなことをいたさないことを約束いたしておきます。”

すなわちこの調査は、質問に対する文章による回答方式をとった。これは問題の複雑性と未知性から、選択性アンケート方式にした場合の質問作成の困難さ、およびその統計の疑問さを考えたためである。

3 回収状況

卒業生全員163名のうち、25名（男子18名、女子7名）が回答した。回収率は15%（男15%、女15%）である。また、記名は2通だけで、他はすべて匿名であった。ともあれ、回収状態が悪かった。それは、卒業生の進学期で、大学可否の発表や大学・予備校へ遊学の準備で、心身ともに多忙であったこと、さらに文章作成のわずらわしさという悪条件のせいであった。異状入試で予想以上の影響をうけたかれらに、とても長文を書く余裕が生じなかったろうと同情もしたい。

4 反省

新卒業者を調査したことは、いくつかの無理があった。にもかかわらず、少数とはいえ真面目な回答を得、それぞれ貴重な体験と真摯な批判を入手できたことは有難かった。とくに高校卒業の時点での感想を知ることができて有意義であった。

不十分ではあるが、本校生についての一応の動向をうかがうことができたと思う。ただこのような調査では言葉の概念がはっきりしないことが大きな特色である。終始つきまとった障害である。そのため数量的処理をあきらめねばならなかったし、今後もこのことの困難さがつきまとうことを痛感した。

また、このような問題では、生徒の個人差がきわめて大きく、同じ表現でも、内容がかなり違ふと感じることがしばしばあった。さらに、意見が、同一人でもどんどん変わりつつある時期であることを知った。混沌としていて流動的であり、場合場合によってどうにでも答えが出てくる可能性があると感じられた。このような問題についての高校生の意見、態度は、固定したものとはいけないのである。

二 「本校生の政治意識および政治活動」についての回答の内容

以下、調査の回答の一部を抜粋してかかげる。「 」内が生徒の文章である。A～Yは仮りに付した生徒の記号である。

1 政治的事項についての関心の有無、関心の程度

(1) 「なし」

○〔在学中の経験〕「いくら考えても、頭脳の訓練にはなるであろうが、実際問題として、どうにもならない。」「新聞などを通じて入手する情報がはなはだ不正確で、信用するに足ら

ない。」「そういう問題は、他人からどうこう言われても、自分で、それを消化する能力がない限り、むだであると決めてかかっていた。」(A男)

〔卒業の時点における反省的な感想〕「僕の態度はまちがってないと思う。」

- 「いわゆる受験勉強一本槍で、政治的事項についての関心は皆無の状態であった。社会問題なら少しは関心があったが、政治・経済となると事情に疎かった為もあって、真剣に考えたことがなかった。」「自分一人が政治を経済を動かす力がどれだけでもちうるものか、という考えが潜在的にしみ透っていたのかも知れない。」(B男)

「僕みたいな人間は、視野の狭い人間なのである。東大ノンポリ学生というのは僕みたいな人間になり易いのではないかと思う。」「高校生には、高校生としての「私はこう考えます。」といえるような意見をいつでも述べられるような心構えが必要ではなかったか。」

- 「あまりなかった、というより、そのみに専心して学業がおろそかになるのを恐れて、故意に遅けたという方が正直なところだろう。」(C女)

「自分のとった態度に全く後悔していない。目先きの問題に捕われず、高校生活を送れてよかったと思う。」

- 「あまり無い。」「逃避していたのでしょうか。政治というより世の中の人間のもやもやしたものが、とても汚れて見え、せつかくの学生時代、そういう俗世間的なものから遠ざかりたいという気持ちさえ持っていました。新聞も、気分にかかせてしかひろげませんでした。」「学生問題などの混乱を契機に少しは関心が高まりました。」(D女)

「どんなに政治が、社会が、経済が複雑怪奇なものか、ということ薄々感じてはいましたが、別に知らないなら知らないままに、何とかなるだろうと呑気に構えていたのが、近頃、恥ずかしくなっています。私と少しもかわらない世代の人達が、革命までおこそうと騒いでいる時、知ろうともしない自分がエゴイストだと思っています。」「おそまきながら、複雑な世のしくみ、情勢を少しは人に納得いく説明ができることが必要ではないか、と反省し始めています。」

- 「女性是一般に関心が薄いと言われるが、私はまして薄かった。」「学校では私のまわりは女性ばかりだったし、家庭では私が一番上で、父もそんなに政治に関心をもっている方ではなかったもので、いつの間には、政治は、私の生活と別なものになっていた。(E女)

「在学中にもっといろいろな事を知っておけばよかったと思っている。」「女性ももっと政治の事をよく知らなければならない。」

(2) 「ある程度関心がある」

- 「別に関心なし。といっても屋良主席が誰であるか、位は知っていた。」(F男)

「高校生だからといって政治的事項に関心を持たねばならぬということはない。とかく政治にこだわりすぎる傾向がある。」

- 「まだまだ薄い方である。テレビ・ラジオ・新聞のニュースもニュース解説も積極的に見ようという気持ち時々にしこおらない。すぐ娯楽的なものに目が移ってしまう。」「ふだんから基礎的な知識が少なく時々新聞の解説がわからないことがある。」「まだまだ私の頭は白紙同様である。」(G女)

「高校を卒業して今、自分が本当に弱い存在だという絶望的な感じをもっている。三年間、ただいいいや教科書を開き、テストを受け、そして無意味に時を過ごしたような気がする。」「とにかく、もっといろいろな問題に対して勉強すればよかった、と思う。」

○「新聞で見る程度で、ほとんどなし。」(H男)

「大学の入学に当たって、いろいろのパンフレットを見、(学園紛争の)発端のばかばかりさを痛感し、一部の学生に怒りを感じず。それが政治問題に発展しているのを知り、あらためて政治問題を深く見てみようと思う。」

○「関心がないことはない。しかし、その動機はというと、どちらかといえば興味中心のものであるように思う。」(I男)

○「僕の高校生活は、勉強においまくられたという感じで、政治的関心を持つ余裕がなかった。」「新聞、雑誌等から常識程度に知識を得た以外、現実の政治問題に深い関心を抱いたことは一度しかない。それは二年の二学期で、二、三の友人と『第三次世界大戦の起こる可能性』と『日本の軍備の必要性』について語った時である。」「思想的な面ではかなり学んだつもりである。……共産主義の理論もわからないままに少しかじった。」「そこで得た初歩的知識は、現在の大学紛争に対する僕の考え方に大いに役立った。」(J男)

「政治的問題に対しては、自分ながらの考えを持っていたし、深く追求することはない。でも、常識程度は知っていたつもりである。」「度をこえて深く追求するものかどうかと思うが、しかし受験のために社会の一員としての生活を放棄する受験生活にも反対である。」「僕の場合、もう少し政治的関心をもってもよかったと思うが、浅くもなく、また深くもない僕程度が、高校生として一番よいのではないか。」

○「新聞の社説やニュース解説などを通じて政治的事項にかなり関心があったが、それはあくまでも知識を得るだけに止まり、将来の展望などについては、あまり深く考えたことはなかった。」(K男)

「政治的事項にはやはり関心があったが、受験のせいもあって、分野は大学問題についてというふうに限られた。」

○「ある程度関心があるが、それを実行に移した所で、社会からはなかなかみとめられないだろうし、また確固たる信念をもってはいない。」(L男)

○「一、二年の時は、新聞・テレビ等の報道を受動的にしか受けとっていなかった。」「ある種の政治的思想をもちはじめたのは、二年の終り頃でなかったかと思う。」「しかし全体としてみれば、政治的関心は薄かったように思う。」(M男)

「現在は、安保・沖縄等国内事情に関連して積極的に政治をながめようとしているし、未熟であるが、何んらかの批判もできると思う。」

○「ほとんどクラブにのみ関心をもち、その外の事柄にはほとんど興味すら持たなかったのに、二年の十月ごろから、……現代作家達、或いは『入試』にはほとんど出題をみない著者の作品を読み、……この時期を境いに総ての分野に関心ができた。」「それは全く偶然自分から発した一言によって始められた読書であったが、それ以後一年程の間に読んだ数十冊の本は、僕の生活・考え方・自分の生活範囲など、総ての面に影響を与えた。それが政治的事項にまでおよんだことは、言うまでもない。」(N男)

「社会生活をまだ始めていない自分の中では、関心は育ちきらなかった。というより『関心を持つ』ことに限界があったと今感じている。」「情報をいかに取り入れるか、自分の中で一つの意見を形成し、その意見に確信を抱くことができるか、という点に関しては、僕自身がそうであったように、多くの高校生にとって非常に困難な問題であろう。」

○「関心少々あり。」(O男)

「今日の社会機構は大きすぎ、その上複雑怪奇で、凡人にとってどうにもできない。」
「政治を担当することのできる人物は、あつかましくて、人間味のあまりない、思うことも平気でやれる人間のみである。……政治家が、すべてそうであるとはいわないが、大多数はチンピラまがいの地方の顔役である。」「政治は金により動かされている。金は大資本家（共産圏では国家）がにぎっている。迷惑するのは、力のない大衆である。西側も東側も、文明国も非文明国も多少の違いはあれ、この様子だと思われる。」「日本は……かなり大衆の利益にウエイトがおかれていると思われる。」「僕が現代政治のうち最も腹立たしいことは、一般大衆がそろいもそろってバカばかりであるということだ。……だから立派な政治家が現われることができない。」「どうすればよいか、さっぱりわからない。あきらめるよりしかたがない。」

- 「関心はかなり強く、新聞等を通してかなりの知識もあったが、直接の問題として考えず、したがって自分自身の確乎たる見解をもつにはいたらなかった。すなわち自分を問題の枠外におき、傍観的態度の関心を持っていた。」「高校という一種の温床から政治事項を見ていた。参政権が与えられていなかった。受験勉強に忙しかった。」（P男）

「受験勉強に忙がしかったから、傍観的態度をとらざるを得なかったというよりは、逆に政治問題を真剣に考えるには、今の社会には矛盾が余りにも多すぎるので、真剣に取り組む考えることから免れるために、受験という絶好の口実を持ちだして自分自身をだましていた、という考え方が当たっているかも知れない。」

- 「関心の程度ははっきりしない。また関心をもつにしても、僕に供給される情報は新聞・テレビにのみたよっているんで、ある一方の側のみ立って事件を考えがちになる。自分としては不本意であるが仕方がない。」（Q男）

- 「高校生の段階で被保護者の立場であるから、直接政治に参加するわけでないから、非常な関心は持っていない。しかし最近の大学生の問題から少しは関心を持ち始めた。」（R女）

「政治に対して私達は常に関心の眼を向けなければならないと思う。」「憲法第九条の問題の一つにしても……政府の根本が間違っていれば、私達は堂々と政府に対して抗議しても良い訳である。」「政治の問題は人間の生活上最も根本的なものであるから、私達のような若い世代には背負い切れない任務だ。しかし私達は無関心であってはならないと思う。むしろこれからは社会の一員として政治を見直さなければならないと思う。」

- 「身近な大学問題などについては、新聞・雑誌を読む程度。ある程度自分の考えを持っていた。」（S女）

「大学入学が決った現在、大学問題への関心とともに、正常化への願いも強くもっている。」

- 「一、二年そして三年の前半ぐらいまでは、政治・経済・社会問題についての関心は、あるといえばあった。新聞のそういうページに注意していた。しかしそれはあくまで間接的というか、私自身とは無関係な、何かある距離をおいた世界の出来事にすぎなかった。それが具体的に私自身にもどこかつながりのある出来事で、私自身も真剣に考えたのは、東大紛争をはじめとする全国の各大学の紛争であった。」「若者と大人の意見のくいちがいなどをまざまざとみて……私は、どちらかといえば若者に共鳴し、大人に批判的な見解をもった。」

（T女）

「今は少し消極的というか、あまり考えたくないというようになった。」「私にとって

はっきりいえば、政治的事項などを真剣に考えても害あって利はないであろう。しかし無駄なことではない。少くともそういう事態に直面して、自分なりに主体的に考えることができるであろう。」

- 「毎日、新聞を読みながら、自分なりの意見を考えてみたり、矛盾の多い政治に対し憤慨しました。」「新聞を読むことも日課の一つであった。」「関心の程度となると、毎日の茶飯事に対するものと同程度の……としか言えません。そこから僕の考えや行動に変化が生まれてくるわけでも何でもありませんでした。自分なりに考えて見たところで、憤慨したところで、一たい何になるというのだろうというような、あきらめが先立っていました。」(U男)
- 「政治に対する考えを、行動によって表わさなかったという事をまったく後悔していません。いままで自分なりに無気力であっても、政治に対する意見を失わずにこれたことは、良いことだったと思っていますし、これからも続けてゆきたく思います。」
- 「非常に関心を持っていたと思う。しかしそれは興味が中心で、政治的事項が直接我々に与える影響といったようなことについては、全く考慮していなかったといえる。」(V男)
- 「高校時代の興味本位的見方に対して、反省の態度をもっている。」「現代の「時の流れ」的動向に対して、現実的な、また最も敏速な処置が必要であろう。僕は現在、そういった観点から関心をもっている。」
- 「参議院議員選挙、自民党総裁選挙、大学問題の三つには、非常に強い関心をもち、小笠原、沖縄の返還問題、アメリカ大統領選挙、チェコ事件、フランス、イギリスの金融悪化、中東問題、ベトナム問題、ジェット機墜落事件などに、ある程度関心をもった。」(W男)
- 「国内問題や自分に関係する問題に対しては関心が強かったが、国外の問題に関しては、特に強い関心が湧かなかった。」

2 政治的事項と本校教育との関係

- 〔在学中の経験〕「本校教育に政治的事項がこめられていたとは思わない。」(F男)
- 〔卒業の時点における反省的な感想〕「誤りなしと思う。」
- 「本校教育は、他校と同じく、政治的事項にはノータッチの感がする。」(H男)
- 「何も関係がなかった、というのが正直な感じである。授業でそれを取扱う程余裕のある先生はいらっしゃらなかったと思う。またHR時でもそれに対して議論などしなかった。」(G女)
- 「学校当局から見れば、それは責められるべきでないと考えられる。政治の問題はあくまで生徒の自主的なものとしてあらねばならない。……過去三年間に校内で政治的関心が盛り上がらなかったのは、すべて生徒の非であるように思われる。」
- 「本校教育は、政治的事項を消滅させる方に努力しているように思う。……政治的な事はない、全くきりはなされている。」(T女)
- 「何か一方的に上からおしつけるような感じがなかった。政治的なにおいがあると、すぐそれは消してしまおうとしていたように思う。しかしそれらは何か反発を感じるものではあったが、今思えば賢明な教育方針であったと思う。」
- 「かなり無関係という立場をとっていたように思う。やや保守的なという感じは免れ得なかったように思う。」(C女)
- 「もう少し、生徒に偏らない客観的な認識を与えるような活動が欲しかった。」

○「ほとんど無関係だったと思います。」「急に三年生も半ば過ぎた頃からか、政治に関するザワメキ声のようなものが鈍い私の耳にも入って来ましたが、それは純粋な高校生の政治に対する目覚めであったのか、それとも、もしかしたら、例えば入試という重苦しい道を知らず知らずのうちに避けようとする、一時的な協道の一つの例だったのか、今だにわかりません。」「学校新聞にも政治の色彩の記事は見られなかったように覚えています。」(D女)

「学校と政治の関係が薄かったのは、私達の純粋な芽を大切にしておいて下さるという意味からいっては、大変幸福なことだった。でも、それが私のように無関心な者をいつまでも無関心なままほうっておいて、ある時突然ある一方向から強烈な刺激を与えられた時、ただただそっちに、或いは逆方向につつまれてしまうという危険性が含まれるのではないかと思います。」

○「在校中は先生がたの政治的中立を守る立場にやや不満の気持ちも感じられ、もっと自分の意見を卒直に述べてほしいと思われる時もしばしばあった。」(K男)

「卒業の時点になって見ると、やはり学校は政治的中立を守るべき所であり、先生方の方の態度は適切であったと思う。」

○「あまり関係がなかったように思う。」(Q男)

○「文部省の考え方が如実に反映されていて、ここに育った者としてはかなり息苦しかった。」(X男)

「だから僕は私学へ進みたい。」

○「なんら関係がないと思う。学校、HR等あまりにも幼稚すぎる。」(L男)

○「付高の教育は、くそまじめである。」「生徒会もかなり自由であるらしい。それが低調なのは総て生徒の無関心にある。その無関心はどこからくるかというと、総て現代社会機構からである。」(O男)

「自治活動だといって動きまわったところで、ままとに過ぎない。それに生徒会は、関心のある一部生徒のみによる自治活動になるのがわかっているくせに、体裁を整えるために、自治活動も学校の教育の中に入れて文部省もずるい。」

○「各先生の評論家的見解を聞くにとどまった。もっと深く考える機会がほしかったが、高校においては、これが限度かとあきらめていた。」(S女)

「受験という難関を控えている以上、私たちは高校において、どうしても政治問題を真剣に考える時間が少なくなる。」「大学受験にいったとき、休み時間になると、多くの人たち(特に浪人)がテストのことでなく、大学問題を話し合っていたのを見て、自分の関心のうすさがむしろ恥かしかつた。これは私個人の責任だが……本校が大学進学を目標としているのだから、大学が問題をかかえている以上、その問題をみんなで考える時間が必要なのではないだろうか。」

○「授業中に政治問題について話される先生がいたことは、よかったと思う。」「HR時、二年生のときグループごとで話し合いをしたことがあった。そのときは、政治問題が主題ではなかったが、政治の話も提議され、かなり関心をもっている人が多数いたことがあって、僕は驚ろかされたことがありました。」(B男)

「有志会なるもの、時事問題討議クラブなるものを結成して、大いに意見を戦わせあえばよいと思います。」

○「別に感じたことなし。」(V男)

「教育においては、教えられるものの主体性が強く要求されなければならないと思う。」

つまり教えられる側に支点があるべきである。」「ある一部においては確かに現実の社会感から離れている所があると思う。それは、一部の先生においては物事を純客観的にしか見られず、古い一般論理を述べられるだけといった節が、ほんの少しではあるが、あったように思う。……但しこれは政治的事項とは全く関係しない。」

- 「付属高校の自由な雰囲気、校風をほんとうに味わったのは二年の時である。」「HRの時間、生徒同志の討論で、政治的問題や付高のあり方を話し合ったことが印象に深い。この機会を通して政治問題への関心が刺激された点も僕には重要なことである。」(J男)

「付高には自由の伝統がある。この自由が、友人との対話、さらに推し進めてクラスメートとの対話、先生との対話を可能にしているのだと思う。……学校側からはあまり政治的問題に対する示唆はなかったが、一部の生徒の間では、かなり活発に意見の交換が行われていたようである。学校側は、そういった生徒のサークル的活動を静観し注意を与える程度で、干渉しない方がよい。さらに諸先生方が参加してくだされば、すばらしいサークルができると思う。……生徒間の自由な対話が最も重要だと思う。」

- 「授業、問題になるのは社会科、それも倫社と政経と歴史であるが、現在の受験体制のもとでは、いずれも政治的事項は余り関係がないようである。僕個人としてはむしろ政治色のある授業でもよいと思った。小中学生と違い、教師の意見を丸呑みするわけでなし、かえって政治的事項を考える手がかかりになるからである。HRはお遊びの時間、生徒会は行事屋の性格が強い。政治色などほとんどなかった。僕はそれでよいと思っていた。高校時代は政治的事項についての関心および啓発の程度は大きな個人差がある(特に女子生徒の政治的な自覚が低いと思う)ので、HR、生徒会で話し合っても無駄である。個人的に数人の仲間と話す方が充実した話しができる。」(P男)

- 「授業中には政治的事項が話題になったことはあまりなかったようだが、友達の間には、興味的な意味も含めて、かなり盛んで、一部には玄人じみた人もあったように思う。」(I男)

「これらの人達も、ただ表面的事象をのみ云々したり、あれやこれと世間話しじみた批判をするだけで、政治を動かす思想や力関係について論ずるのはまれであったようである。」

- 「特別これと言って思いあたるようなことはありません。」(U男)

「学校は当然政治に関係しているのだから、それが目立たなかったと言うことは、それだけ危険な関係にあると言えのではないのでしょうか。」

- 「本校には卒業式中を中止させるような過激な政治活動は見あたらない。」(E女)

「本校のエリート中のエリートたちは、もの事を見通してはいるが、決して手を出さず、冷静である。私に代表される低辺層は、その事の実体すらつかめず、まごまごするばかり。これらを結ぶ中間層、彼らが本校の生徒会、クラブの担い手であったが、上へも下へも、その距離が離れすぎていて、焦り苛立つばかりであった。……それを縮めるのが私達の役目であったが、先生方にも理解してほしいと思う。」

- 「政治経済の授業以外の本校教育では、あまり政治的事項を扱わなかったようだ。」(W男)

「政治的事項に関しては、個人個人が考えて自分の意見を持てばよいのであり、また個人個人の意見は一つにまとまるものではない。本校教育にもっと政治的事項を取り上げてよいが、それは生徒に考えさせるきっかけを与えるだけのものでよいと思う。」

- 「政治的関心の強い先生……良くない先生。政治的関心の薄い先生……良い先生。」(Y男)

- 「在学中、本校教育から政治的関連のある「教育」を受けたとは余り感じていない。授業中

に幾人かの先生から「私的」に政治的な問題に関して話を聞いたが、それから影響を受けた、もしくは、問題意識を眼ざめさせられたことはない。」「僕達が知りたかったのは、何故、先生がそういう行動をし、また何故それに固執するか、である。そして過去二十数年間にどんなに保守政権の悪政によって曲げられていったかであり、これからどうなるだろうか、という点である。目の前にある軍隊の存在をどう考えるかについては教えてほしくはなかったが、どうして軍隊が必要とされたか、その経過だけでも教えてほしかった。」(N男)

「現時点においては、僕はただ失望の意を表わすのみである。……僕は、何に向って走ったか、わからなくなった。」「僕は政治の人間よりも動物の人間である。……いくら沖縄を論じてみたとして、僕の内部ではその占める位置は常に小さいものである。……僕にとって解決すべき重要な問題はセックスに変わってきた。」「学校教育に対して、僕は失望していることだけは確かである。僕の価値の中では、学校で習ったことは小さなものしか占めていないように思う。」

- 「近頃の生徒会は、校則にあるからやるといような感じになってきました。……僕みたいに、クラブはなくてもいい、行事はやらなくてもいい、なんて思っている者にどうして生徒会がすばらしいと思えますか。」(A男)

3 高校生の政治活動についての感想

(1) 否定的な意見

- 「ハイスクール・パワーが波及しているそうだが、まだ高校生位の年令で、何に反抗しようとしているのか、わからない。」「しっかりした確信や思想があつてのことなら別であるが、まだ高校生の段階で政治活動をしよつということは、無理があるのではないだろうか。」(R女)
- 「その行動のもとに深い考えがあれば、なにをも責めることはない。ただ、今の活動には、とてもそれがあるとは思えない。」(F男)
- 「まだ高校生の段階としては、こういつては利己主義的になるが、やらない方がよいのではないかと思う」(Q男)
- 「高校生は、精神的にはまだ発育段階に位置するものである。したがって高校生は、政治に関心を持つことは大いに大切なことではあるが、それを討論の段階に止め、将来の社会に対する自分の理想像を描くことにとどめておくべきだと思う。一部の大学の暴力学生の真似をするのは論外である。」(K男)
- 「反対です。時期尚早だと思います。まだよく知らないで動くのは甚だ危険だと思うからです。」「高校生でも述べることは自由だと思いますし、立派な考え方なら聞いてもらわなければなりません、それが活動とか運動とか呼ばれる形にまで発展するのは、本来の目的である他方面の学習をやりたい者達にとって迷惑でしょう。正義感、純粋な信念は素晴らしいものだと思いますが、それを他人に押しつける、いいえ、わかってもらうには、もっと人格が完成し冷静な眼が備わるまで待ちたいと思います。」(D女)
- 「認識を深め、何が問題かをわきまえることは必要だと思うが、行動に移すには、余りにも責任がなきすぎる。現代の政治は、知れば知る程、憤懣やるかたないものだろうが、これはいつの世にも同じことが言えるだろう。どうしてもと思う者は、自分達の世の来るのを待つて改革すればよいだろう。」(C女)
- 「しつたかぶりをしているようでいや。」「大学の手下という感じ。」(H男)

- 「高校生が学校を占拠し、卒業式を妨害するなど……日本の社会全体が七十年目ざしまっしぐらにかけていく感じである。高校生が政治に興味を示す事自体はいい事だと思うけれど、それがどうして『破壊』と結びついていくのか、よくわからない。大学生に後から押されて行動しているような気がする。」(E女)
- 「高校生は、何も大学生の真似をしてゲバ棒をふることはないと思っています。新聞に書かれてあったように些細な事で、高校封鎖だの何だのと飛びまわることはないと思います。」(U男)
- 「高校生でありながら政治活動をしているなんて、よくそんな余裕(時間的と精神的)があると思う。」「高校生は思想的にも幼稚なのではないかと思うから、なるべくやらない方がよいと思う。」「高校生がやっても、大学生にただ追従しているにすぎないような気がする。」「(B男)
- 「同感する面もあるが、人生は長い。たかが二、三年の間、一生懸命に勉強にはげんだったいいではないか。」(L男)
- 「現在の教育制度に矛盾を感じ、不平をおちまけている生徒に対して同感する点も多い(付高に不満があることをいっているのではない。他学校の悪い点に対するその学校の生徒の不満に共鳴するだけである。)が、政治活動となると問題は別である。政治活動に足をつこんでいる生徒を見て、怒りようもむしろ哀れみを感じる。どうして先生方がもっとよく導いてくださらなかったかを残念に思う。」(I男)
- 「政治的思想をもつことは自由であり、又いろいろとりあげるべき問題だと思う。それが即政治運動となると全く言語道断である。もっと自己をみつめなければならない。自己の物でない考えや行動は実に軽薄であり、何らプラスを与えるものでない。」「こういった活動の背景にマスコミがある。それはマスコミが誇大報道しすぎである。物事の局面だけとらえ、責任をもたない興味本位の報道が数多くあるように思われる。」「(高校生の政治活動は)一種のスポーツ的行為にすぎないと確信する。」(V男)
- 「高校生の政治活動について、高校在学中はあることすら知らなかったが、最近……非常な興味をもつようになった。北陸では高校生の政治活動が不活発なせいか、事情はよく知らない。しかし高校生が卒業式場をあらしまわった……ことで若者の不道德感を社会にさらけだした事はまことに残念である。我々は未熟である。政治活動は早すぎる、というのが今の自分の率直な意見である。」(M男)

(2) 肯定的な意見

- 「高校生の政治活動については、どうしても賛成できなかった。受験勉強で精いっぱいだった僕にとって、そのような余裕もなかったからである。また過激な行動に出る高校生に一体何がわかっているのか、という疑念や反感をもっていた。特に大学生などの力によって背後で糸をとられて踊っているような高校生は、自分の本分を忘れていたのである。」「ただ、現在の高校教育のひずみに反抗する行動が、政治的活動ととられることがあるとすれば、それは世論の誤りではなからうか。たとえば卒業式に卒業証書を破った事件……は、受験本位になった高校教育に対する一種の抗議だととるべきで、これによって考えねばならないのは教師の側であって、生徒が一方的に非難されるのはおかしい。ただ行動が過激すぎただけである。」「(J男)
- 「現在の教育は誤っている。早急に是正せねばならない。」(X男)
- 「おとなが批判するとき、よく未成年だからとか、一人前にもならないくせに、とかいうが、それは誤りだと思う。高校内部のことは、高校生と先生しかわからないのである。問題

は話しあいでも解決すべきだが、それがあまりに根深かくて、学校側が暴力ならぬ暴力を駆使するとしたら、生徒が立ちあがるしかないのではなかろうか。」「高校生の政治活動にしても、先生と生徒との間にほんとうの信頼がある学校では、むちやなことはしないのではないかと思う。大学の問題は大学が解決するという主張と同様、高校も自分の問題は自分で解決して、信頼を取りもどすべきだと思う。」（S女）

○「大学生の問題より小さな問題ではあるが、純粹さがあると思う。……政治・社会に反発はしても、具体的に活動には、それをどうしようというような具体案が出ないように思う。しかし高校生といっても、純粹に物事にぶつかっていける時だと思うから、これからその活動がさかんになるおそれは大いにあるようだ。そんな時、感情に走らずじっくり話し合うことが必要だと思う。しかし、まだ高校生の力は非常に小さい。」（T男）

○「石川県は答辞・送辞を学校側で作るところが多い（まるで小学生ですね）という保守王国ですから、表だった動きはありませんが、僕の秘密調査によると四分の三以上は確実に（もっというでしょうな）不満、それも爆発寸前のものを持っていますね。」（A男）

○「高校生の政治運動について、私はそれを是とします。大人達は『行動する前に考えよ』と言います。そして『今は考える時だ』と。しかし今は考える時であり、今は行動する時であるということは、どうしてはっきり言えるのでしょうか。『お前たちは未熟だ、大人になれば行動してもよい』ということなのか。しかし、彼らは大人になった自分達がどんなことをしているのか知っているのでしょうか。」「私自身としては確信なく行動することは怖くてなかなか踏み切れない。」（G女）

○「高校生の政治活動には賛成であった。賛成といっても僕のは消極的な賛成であった。すなわち政治活動を行う者に対して、それを禁止抑圧するのはよくないと思った。高校生ともなれば一部の人々は既に十分に政治的な自覚を持ち得ると思う。それを抑圧してもかえって反抗を招くばかりである。その点から考えると、今の高校はあまりにも政治活動に対して神経質すぎると思う。現在の高校における政治活動に対する必要以上の神経の使いすぎは、一般の生徒に政治について考えることすらいけないことであるような印象を与えるおそれがある。政治活動の必要以上の抑圧は、一部の高校においてすでに起っているような爆発となり兼ねない。そして日頃政治について考えることをしてなかった生徒が付和雷同しないとも限らない。」（P男）

○「高校生も、高校生としてのやるべき事（勉強）、社会生活をやっていくためのルール（他人を認め、他人に迷惑をかけない）などに反しない範囲においては、政治活動をやってもよい。」（W男）

○「どこかの教委が、高校生のデモ参加を禁じたとかいうことだが、それはまったく無法である。また公園街路でのビラ配りについても同じく非難されることではない。」「政治活動とはいえないが、学校の教育方法にケチをつけて改善を要求することにも反対ではない。ただし暴力は否定する。」「また教育者の偽善的態度に対し、生徒が腹を立てるのは当然である。生徒の見方がまずいこともある。しかし生徒に嫌われるというのは、その人にまずい所が必ずあるはずだ。付高の先生について何も言わないが、……そのような先生に対して、生徒にその人を師として見ろといったって、生徒は軽蔑する以外何ができよう。」（O男）

○「一般の高校生の『政治活動』は、自己の中で意志が成長し、確固たるその意志に基づいて行動に移るのではなく、周囲の動きに対して自分一人が止まっていることに対する不安から、つきつめた思考をする暇もなく、煽動された時には、されたなりに踊り、その後に思考

することになることが多いのではあるまいか。……その一員として行動はしているものの、実は、彼ら個人個人が背負っている内部の空虚感は、埋めるべくもない深遠な不安に根差したものである。……彼らにとって「政治活動」と「生徒会自治活動」との関係は、ほとんど同一の意識から出発しているように感じられる。……彼らは、この「行動」を通して彼らが覚醒した意識をさらに高揚し、彼らの「組織」を拡張し、新たにより確実な目標を発見するだろう。」「彼らがそれで善いにしろ、悪いにしろ、一つの行動を取り得たことは、僕にはただ羨望の念を禁じ得ない。」(N男)

4 付高生にたいする政治意識および活動についての、先輩としての忠告助言

- 「僕は、高校生の間に、自分の内に確固とした政治に対する意識を築くことができませんでした。もちろん活動もしませんでした。それは、常に自分の内にある急進的なあるいは革命的な部分と、保守的であろうあるいは権威に追随しようとする部分とが対立し、遂にどちら側にも傾かなかつたからだと考えます。」「付高生は、政治に対する眼も鋭いと思います。しかし優れていれば優れる程、自分の内部を深く見つめ、自己の内で早く意志を確立しようとあせるでしょう。そしてきっと僕と同じく一度は悩むと思います。後輩の皆さんは、これから自分で選ぶことになります。自分で自分の進むべき道を見きわめて進んで下さい。そして選んだところに自分で責任を持って欲しいのです。それが失敗して挫折しようとも、それがうまくいこうとも、そんなことはどうでもいいことです。自分で自分の態度を決め、その自分に責任を持ち続けること、それが一番大切なのではないのでしょうか。……もしその態度があれば、あなた方の政治意識は、一段高まっていることに自然と気づく日がすぐに来ると思います。」(N男)
- 「別に特に言うことはない。勝手にすればよい。ただし、良く考えた後行動しろと言いたい。そして行動したあとは責任をとれと言いたい。なぜなら、僕は、行動をする前に、他人がどう考えるかということ推理しなかったことで失敗したことが何度もあったからだ。」(O男)
- 「高校生には高校生としてやるべき勉強があり、人間としてやるべき自己完成の為の努力が必要であり、社会生活をやっていく為には他人を認め、他人に迷惑をかけない態度が必要である。これらの事を忘れず、政治に関心があるならば、その関心の程度に応じて、政治を考え、政治活動をやってほしい。」(W男)
- 「何もいうことはない。しいて言えば「先生の言う事は間違いありません。しっかり勉強しなさい」というところでしょう。」(A男)
- 「先生と生徒の間の信頼をまず考えてほしい。信頼がないと、どうしても冷たい規則を作ったり、力でそれに服従させられて、不満がたえないから、ますます溝が深まってゆく。溝をつくったままで、対立してもよくなりようがない。まず信頼をいつまでも持ちつづけるようにしてもらいたい。」(S女)
- 「政治問題にしろ、何にしろ、自分に強くなってもらいたいということです。私は、自分というものに対して何も持っていないので、今すぐく不安で悲しいのです。」(G女)
- 「高校生の政治活動は早すぎる。付高は勉強もたいへんだから、政治問題を深く考える暇もまずないのではないか。現実社会に対する反発から、すぐラジカルな方向に走るのは危険だ。それから現在の高校教育に対する反感と、政治問題を混同せぬようにしてほしい。付高生は、本来の高校教育の在り方を追求する意志をもつべきだが、それは必ずしも政治につな

がるものではない。」「政治意識は、社会の一階級をなす人間として当然持つべきである。政治的事件に対する自分なりの批判なり態度なりは持たねばならない。まだ成人に達しないとはいえ、それは義務である。政治問題を討論するのもよからう。だが、行動に出る前は、よく考えるようにしてほしい。」(J男)

○「我々は、全く親の庇護のもとに今日まで来たという事実を認識しなければならない。しかし政治に無関心であってはならない。政治に対しては、大いに情熱を燃やし、大いに考えねばならない。それと同時に凍るような冷静さが必要なのである。我々の目は純粹である。どんな社会の悪にも濁りきってはいない。それだからこそ冷静に社会をながめ、未来の縮図を描くことこそ必要ではないか。付高生諸君、もっと冷静になりたまえ。」(M男)

○「とやかくいう資格もないが、興味本位でも、自由な思索をもつべきであると思う。政治活動については、もっと他にやらなければならないことが数多くあるはずであるから、まずそちらに中心をおくべきである。つまり現在のとおりでいいのではないだろうか。」(V男)

○「先生方は、少し新しく変わった意見などをきかれたり、見られたりすると(たとえば『現状打壊』などということば)すぐに政治的なにおいを感じられるようであるが、内容はけっしてそんなかたぐるしいものではないようだ。付高生には、明るく自由な雰囲気があり、考え方も前進的だと思う。」「どんな場合も先走らずよく話し合うことだと思う。対話、そしてお互に理解しあうことである。付高生には精神と心構えとは先生方に対する親しみがあるから、話し合えばすべてが解決するものであると信ずる。感情に走らず冷静に対話できる姿勢を学んでほしい。」(T女)

○「政治活動などしないに越したことはない。我々は現在学ぶ立場にある。その学問の内容、教え方について不満とする点があるかもしれないが、現在の制度が最良のものであると信ずることである。実際多くの場合最良であるものだ。そして信じて、学べるだけ学ばねばならない。批判はそれからである。それからでも決しておそくはない。甲を批判するには、甲を知らねばならない。甲を知るためには自己を滅却しても甲を学ばねばならないのである。」(I男)

○「流行におされず、付高独自の校風をのこしてもらいたい。」(L男)

○「自分の政治的意見を公表したい者は、自ら機会を作るなり、与えられた機会を利用するなりして公表すればよいので、もっとじっくり考えたい者は考えればよいと思う。つまり自由にすれば良いということです。」(U男)

○「付高生は、大学に入ってから大学の問題なり、政治問題なりと取り組んでも遅くないと思う。いや、高校にも高校の在り方としての問題があるじゃないかといえば、問題はあるのであるが、僕の経験からして、先生方のことを考えると、学校の汚名になるようなことや、行き過ぎた行動をとることは、どうしても考えられなかった」「付属高校生としてはじない態度、行動をとってほしい。かといって自分個人の考えを殺せという理由ではないが、団体の中での自分というものを考えて、自分一人だけの行動なんかは慎んで欲しいと思う。付高生の大多数が活動に参加するようなことになれば、それは時の流れだから、仕方のない事だと思う。」(B男)

○「高校生は、まだ政治思想などについてはそんなに勉強していないから、すぐ行動に移そうとすると無理が来てしまう。思想も何もなく、ただ空虚さのためにみんなのうしろについて騒ぐというのは、いかにも自身の未熟さを暴露しているようで見苦しい。」「女子の方ももっと政治に関心をもちたなくてはいけないと思う。これは自分の体験から来るものであるが、そうしないと『現代』にとり残されていってしまうのではないだろうか。」(E女)

○「認識不足にならないように。何もわからないうちに、気がついた時には渦の唯中に、なんてことほどさえない話しはありません。」(C女)

○「付属高校で高校生活三年を過ごすことができたのは、とても幸せだったと喜んでいきます。その一つは、*「知らない」*ということを自分自身に恥ずかしく思うことができるようになったことがあげられます。だから政治についても *「知る」*ことは大切だと思います。もちろん女の人でも。でも聞きかじりで一人合点してわかったつもりは少し図々しいと思います。いつでも謙虚かつ素直な態度で聞き考えて下さい。自分の政治に対するある信念が長い間変らなかつたら、その時活動を試みても遅くないでしょう。焦らないで下さい。」(D女)

○「付高生で政治活動まがいの事はしても、暴力に訴えようとする人はいないのではないかとと思う。これは小心な利己主義の結果であるか、それとも常識を備えた良心的な人間であるかは知らないけれども。しかしもっと政治といわず、自分達自身の自主運営、生徒会活動に対する関心があってもよいのではないだろうか。政治活動云々という前に、自分達自身の問題を解決しなければならないのではないか。」「政治ばかりでなし、あらゆる事に好奇心を持ち、何でも見てやろう、吸収してやろうという気持が大切なのではないかと思う。またそういう新奇な気持、知識の渴望という事が、我々青年にとって一番大切な事なのではなかろうか。」(R女)

○「高校生の政治活動、特に表面に現われてくる実際行動はさけた方がよい。昼食時、HR時などを利用してクラスや友人同志のあいだで政治問題について討論しあったり、また倫社、政経の時間なりに先生に質問などしてそれぞれの疑問点を解決してゆく方が、高校生として望ましい態度ではないかと思う。」(Q男)

○「個人的な差はかなりあるが、平均的には付高生の知的水準、思考力は高いものであると思うので、政治意識を大いに高めて、政治問題を考え論ずべきである。その方法は、僕としては、個人的に数人の仲間と話すのがよいと思う。政治問題を扱う同好会などを結成するのも一方法であると思う。これからは高校のあり方というものも問題になってくると思うから、問題提起がなされた場合にまごつかないように、自分の考えをまとめておくことが必要であると思う。」(P男)

II 指導の研究

一 作業と集会

本校生の政治意識および政治活動を、いかに適切に指導するかは、重大な問題である。結論が出るかどうかともわからない。しかし放置しておくわけにもいかない。とりあえず、この問題の研究を始めた。

1 生徒への調査と整理

前章Ⅰの一に記述したような、本校生への調査を実施し、回答の回収が一段落したのは五月上旬であった。それから、回答を整理した。長文の内容であるため、その要旨を表わすと思われる文章を抜粋して、項目別に羅列した。この作業は小倉教官がひとりで行ったので、個人的主観による編集となっていることは否定できないであろう。この結果、前章Ⅰの二にかかげたようなものとなった。ただし、それよりやや多い分量である。

2 教官への調査と整理

この生徒への調査結果を整理した資料を印刷し、五月中頃に全教官に配布した。同時に

① 本校教育において、政治的事項をどう取り扱うか、についての御意見

- 1 授業（特定科目、一般教科）
- 2 H R 時
- 3 生徒会（執行部、クラブ同好会）
- 4 図 書 館
- 5 そ の 他

② 本校における生徒の政治活動にどう対処するか、についての御意見

- 1 政治的発言発表（校内・校外）
- 2 本校生の政治的行動（例えばデモ・ビラ配布・連合体結成など）（校内・校外）
- 3 外部からの働きかけ

というアンケートを、記述式回答方法で、全教官に依頼した。この調査は五月末までに全教官から回収し、全文を各項目ごとに羅列して匿名にて掲げた。そして印刷した。この作業は、研究部が担当した。

なお、このアンケートの回答内容は、この紙上では発表しない。

3 教 官 研 修 会

本校では、教育の指導等を研究する目的で全教官による研修会をもつ制度がある。そこで、6月上旬に、「本校生の政治活動」についての教官研修会をもった。参考資料としては、上述の、卒業生への調査の整理資料と、全教官への調査の整理資料を用いた。ここにおける討議や結論は、決定事項とはならず、あくまで参考事項である。なお、研修会の進行は補導部が、記録は研究部が分担した。

二 「本校生の政治活動」についての教官研修会の討議概要

1 政治研究と政治活動

「政治活動」が意味するものについての受け取り方に、個人により差異がある。

高校生各個人が、政治問題（社会・経済・思想的事項を含めて）に興味をもち、研究し、そのため他人と質疑討論し、自己の意見を発表することは、当然のことである。許すとか許さないとか、論ずるまでもない。これを仮りに「政治研究」と名づけると、この政治研究は、学校でも、平常普通のことである。学校・教師は、この政治研究にたいし、良く指導しなければならない。ただし、今日以上に煽動、奨励する必要がない。

生徒が、何かを意図し、政治研究を装い、現実の政治問題を口実にし、あるいは各種の機会をとらえて、ついに集団的行動をひき起すことは、革命運動であり、反体制運動であり、このようないわゆる「政治活動」には大いに注目しなければならない。本校生の政治活動を規制しなければならないとするのが、教官大多数の意向である。その他の教官も、この問題の重大性のため、即答がなかったため、規制に反対がない。

2 政治活動への考え方

現実、大学生を中心にした反体制的革命運動が激化している今日、本校生の動向につい

て、生徒指導上、無為無策であってよいといえない。将来起ることを予想しての対策は、むしろ刺戟を与えるだけだから、泰然としておればよいとの考えもあるが、本校生の政治的関心の焦点の診断を怠らず、さらに政治活動の契機が本校教育の動きの中にないか、教官は反省を怠ってはならない、との意見が有力である。

だいたい、政治活動は偶発的に起るものでなく、生徒の生活の中に、どのような因子が政治的刺戟によっていわゆる政治活動となって引火爆発するものか、を解明してみる必要がある。学校教育としては、直接に運動を規制する方法よりも、政治活動に乘じられない教育が望ましい。

3 政治活動の誘因

しからば、本校において政治活動の誘因となりそうだと考えられるものは何か。

若者には精神的不満が強い。本校生も例外でない。卒業生のアンケート回答から感ずるところでは、現実的政治への関心の有無・強弱とは無関係に、何かしら反抗的心理の強い高校生が多い。押さえられている反抗心は、動機があれば爆発する可能性が大きいものと思われる。政治問題は、そのさいの目的となるとは限らない。ただし手段となるかも知れない。（もしこのような組織的反抗運動があったとしたら、それも政治活動とよべるか、疑問である。）ともあれ、現状不満からの反抗心が、大学進学とともに、暴力的学生運動への参加と結びつく一要因でもあろう。

本校生の反抗的心理の誘因は何か、その一つに学業成績の不振がある。とくに中学校の優等生が、本校進学後成績が低下したと感じた場合、情緒が安定せず、やがて周囲に強い不満を抱くことがある。その二つに家庭環境がある。家庭の教育方針に対する青年初期らしい心理的反抗がある。その三つに現実社会に対する青年らしい純真な批判からくる不満感、失望感がある。とくに現在の政治を悪とする観方が強い。世代間の意識の断絶感もある。根強い大人不信感がらかがえる。しかも現実社会は生徒の将来の生活の場になるところであるから、鋭い洞察の眼を向けようとするのは当然である。その四つに、本校教育への不満もあろうか、と考えられる。

4 教育的対処

本校生を、確信がないままに政治活動に走らせてはならない。それが外部からの働きかけに乗せられたものであっても、強く教育的責任を感じねばならない。いわんや直接の動機が本校の教育そのものに発するものであるならば、まことに慙愧に堪えない。

本校では、カリキュラム、生活指導の運営に常に最善を尽すだけでなく、随時反省的点検をしなければならない。

さらに、教育方針そのものについても反省が加えられねばならない。戦後の教育は高度に技術化し、ために進歩した面がある反面、人間として接触する教育が欠ける。受験のため意気消沈する者が多い。日本人としての共通意識を養成することがない。とくに本校生には、成績不振による劣等感に陥る者が少なくない。かれらの情緒の不安定を安定化させることは、単に政治活動の一誘因を断つためからではなく、教育上重大課題である。

また、暴力的反体制運動の思想に対する批判力を生徒に養成することができないであろうか、との意見があった。革命が自然法則のごとく必然であるとするマルキシズムもまた一つの学説に過ぎないことを理解してほしいとの発言があった。しかし、その方法、時期、担当者に問題があり、積極的な反共教育もまた問題がある。さらに、思想的批判力の養成に関連し、い

かなる体制にも不満はあるはずであり、現体制の理由を生徒に示してやることが大切である、より高次元から眺められる姿勢を必要とする、との意見があった。ただし具体的方策にまで話しは進展しなかった。

教官研修会は、政治活動についてのオリエンテーションをもった。教師集団としての将来の展望を考えた。今後の検討を感じた。

追 記

高校生の政治活動の誘因として、外からの働きかけ、なかでも大学生およびマスコミの影響がきわめて大きいように考えられる。最近の本校は、表面上平穏無事であり、例年と何ら異るところがない。何しろ保守王国の土地柄と、地元の金沢大学の学生運動が比較的不活発であることが影響していると思われる。マスコミが高校生の騒動を最近否定的にとりあげることも関係があると思う。生徒は冷静である。

日本にもこんなところがある、というのは井の中の蛙の弁であろうか。